

原石を採せ

東北楽天スカウト日誌

ことしの東北地区は人材の宝庫です。特に大学生の投手は逸材ばかり。ドラフト候補の筆頭格は仙台大の熊原健人、富士大の多和田真三郎の両投手でしょう。

熊原は昨年、大学日本代表に初めて選ばれ、国際試合で力を証明しました。直球、スライダー、フォークボール、どの球種でも簡単にストライクが取れるのが魅力で、投げっぷりがいい。9回を投げて、100球を投げて、球威が落ちない体力は武器でしょう。

宮城・柴田高の時から力はありませんでしたが、フォームにばらつきがあり、ここまで一歩ずつ成長してきた印象があります。マウンド上では実際の

上岡 良一 アマ・スカウトグループマネジャー

身長(178センチ)以上の風格があり、守備でありながら打者に対して攻撃しているような打球スタイルです。

打者の手元で球が伸びるよう、押し込んでくるような感じの球を投げるので、打者が捉えたとおもってもさほど打球が伸びません。

熊原に匹敵するのが多和

東北地区逸材そろそろ

田。今春の北東北大学リーグではここまで5試合に登板し、29回を投げて3安打無失点。39個の三振を奪い、驚異的な数字を残しています。

地面にへばりつくような独特の投球フォームが特長で、

リリースポイントはかなり前。タイミングを取りづらい投手です。昨季まで球が上ずることがありましたが、それもなくなり制球はより安定してきました。

2人に共通しているのは150キロを超える速球を持っていること。スカウトの視点から言えば、それ以上に140



うえおか・りょういち 大阪生まれ。大阪・桜宮高―東北福祉大入団。89年、ドラフト4位で日本ハムに入団。投手として1軍に2試合登板し、92年に引退。東北福祉大講師を経て05年、東北楽天入り。14年12月から現職。北海道・東北地区を担当する。48歳。

台中盤の質の高い球を常時投げられることが魅力です。この2人に加え、東北福祉大の佐藤優投手も実力は拮抗(きつこう)しています。玄

人好みの選手で、ボールが高めに浮かないのが最大のポイント。ここで名前を挙げた選手だけに注目しているわけではあり

ません。東北楽天のユニフォームを着て、本拠地のコボスタ宮城で活躍するイメージを抱きながら、日々アマチュアの選手を追い掛けている。

高校は昨秋の明治神宮大会を制した仙台育英高の投打の柱、佐藤世那投手、平沢大河内野手に注目です。佐藤は制球が難しいフォークボールを自在に操り、ストライクも